

八木が谷中学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理について

～学習指導に関わる「八木が谷中学校の新しい生活様式」～ (2020. 5. 28)

1. 八木が谷中学校における感染症対策の考え方

新型コロナウイルス感染症とともに生きていく社会を作るためには、感染リスクはゼロにならないことを受け入れつつ、感染レベルを可能な限り低減させながら学校教育活動を継続していくことが重要です。したがって、地域の感染レベルの状況に対応しながら、学校教育活動を継続しつつ「新しい生活様式」への円滑な移行と生徒及び教職員の行動変容の徹底を図っていきます。

「新しい生活様式」を踏まえた八木が谷中の行動基準

感染レベル	八木が谷中における段階的再開	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動
レベル3	休業 登校日(5月中)	できるだけ2m程度 (最低1m)	行わない
レベル2	再開 第1段階(6月1～3日) 第2段階(6月4～5日)	できるだけ2m程度 (最低1m)	リスクの低い活動から徐々に実施
レベル1	再開 第3段階(6月8日) 第4段階(6月9～12日) 第5段階(6月15日～)	1mを目安に学級内で 最大限の間隔を取る	十分な感染対策を行った上で実施

2. 八木が谷中学校における基本的な感染症対策について

手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策に加え、感染拡大リスクの高い「3つの密」を徹底的に避けるために、身体的距離の確保(ソーシャルディスタンスあるいはフィジカルディスタンス)といった「新しい生活様式」に移行していきます。

(1)「密閉」の回避(換気の徹底)

換気は、気候上可能な限り常時、困難な場合はこまめに(30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する)、2方向の窓を同時に開けて行うようにします。

① 窓のない部屋

常時入り口を開けておいたり、換気扇を用いたりするなどして十分に換気に努めます。また、使用時は、人の密度が高くないように配慮します。

② 体育館のような広く天井の高い部屋

換気は感染防止の観点から重要であり、広く天井の高い部屋であっても換気に努めるようにします。

③ エアコンを使用している部屋

エアコンは屋内の空気を循環しているのみで、屋内の空気と外気の入れ替えを行っていないことから、エアコン使用時においても換気を行います。

(2)「密集」の回避(身体的距離の確保)

「新しい生活様式」では、人との間隔は、できるだけ2メートル(最低1メートル)空けます。

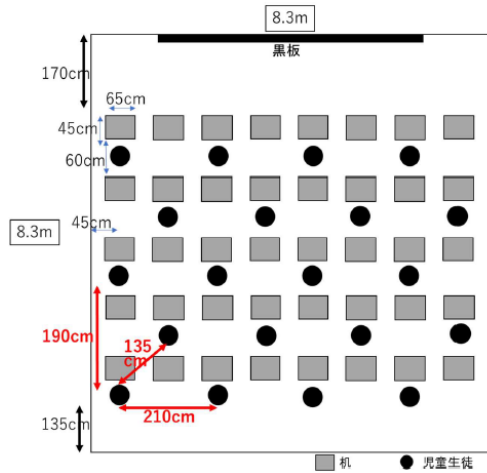
【レベル3・レベル2】

児童生徒の間隔を可能な限り2メートル(最低1メートル)確保するように座席配置を取ります。

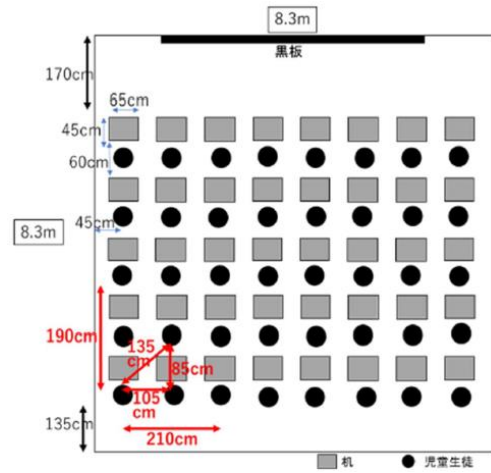
【レベル1】

児童生徒の間隔を1メートルを目安に、学級内で最大限の間隔をとるように座席配置を取ります。なお、以下の図は、座席配置の一例です。これらはいくまでも目安であり、座席の間隔に一律にこだわるのではなく、頻繁な換気などを組み合わせることなどにより、柔軟に対応していきます。

(参考)レベル2・3



(参考)レベル1



(3)「密接」の場面への対応(マスクの着用)

学校教育活動においては、近距離での会話や発声等が必要な場面も生じることから、飛沫を飛ばさないよう、生徒及び教員は、基本的には常時マスクを着用します。

ただし、気候の状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外す場合があります。その際は、換気や生徒の間に十分な距離を保つなどの配慮をします。(なお、体育の授業におけるマスクの着用は必要ありません。)



3. 具体的な活動場面ごとの感染症予防対策について

各教科における「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」として、以下のような活動が挙げられます。(★はこの中でも特にリスクの高いもの)

- 各教科等に共通する活動として「生徒が長時間、近距離で対面式となるグループワーク等」及び、「近距離で一斉に大きな声で話す活動」(★)
- 理科における「生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- 音楽における「室内で生徒が近距離で行う合唱及びリコーダー等の管楽器演奏」(★)
- 美術における「生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- 技術・家庭における「生徒同士が近距離で活動する調理実習」(★)
- 保健体育における「児童生徒が密集する運動」(★)や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」(★)

【レベル3】

上記の活動は、「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い」ことから、行わないようにします。

【レベル2】

上記の活動は、可能な限り感染症対策を行った上で、リスクの低い活動から徐々に実施します。(★)を付した活動については特にリスクが高いことから、実施について慎重に検討します。

その際には、以下の点にも留意します。

- ・できるだけ個人の教材教具を使用し、生徒同士の貸し借りはしないこと。
- ・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒(次亜塩素酸ナトリウム等)や手洗いを行うこと。
- ・体育の授業に関し、医療的ケアが必要または基礎疾患等がある生徒の場合や、保護者から感染の不安により授業への参加を控えたい旨の相談がある場合、授業への参加を強要せずに、生徒や保護者の意向を尊重します。
- ・体育の授業は、当面の間、可能な限り屋外で実施します。ただし、気温が高い日などは熱中症に注意し、天候等で体育館など屋内で実施する必要がある場合は、特に呼気が激しくなるような運動は避けて実施します。

【レベル1】

上記の「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」については、可能な限り感染症対策を行った上で実施します。